

第2学年 国語科 学習指導案

- 1 **単元名** 「いにしえの心を訪ねる」
教材名 『平家物語』 「扇の的」 (国語2 光村図書) 「敦盛の最期」 (中学生の国語2 三省堂) / 「平家物語全注釈 中巻」 (角川書店)
- 2 **単元の目標**
 - ① 「平家物語」 についての感想や、登場人物の心情についての考えを進んで話し合う。(関心・意欲・態度)
 - ② 「平家物語」 特有のリズムに慣れ、特徴をつかんで朗読する。[伝国ア(ア)]
 - ③ 場面の状況を読み取り、その場に置かれた人物の心情について考える。
[読むイ] [伝国ア(イ)]
 - ④ 「平家物語」 に描かれた世界を読み味わい、登場人物のものの見方や考え方について自分の考えをもつ。
[読むエ]
- 3 **単元の評価基準**
 - ① 登場人物の心情について、対話を通して考えを深めようとしている。
 - ② 「語り物」 の特徴をつかんで朗読している。
 - ③ 登場人物の置かれた立場を理解しながら読み、その心情について自分の考えをもっている。
 - ④ 物語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えをもっている。
- 4 **単元と指導の構想**
 - (1) **単元と生徒**
 - ① 生徒の実態
1年の「竹取物語」では教科書の内容に他の教科書会社や資料(「竹が意味するもの」「かぐや姫が地上に来た理由」「五人の貴公子の求婚」「別れの場面」など)を加えた独自の教材を作って学習した。古文を繰り返し読んで慣れ親しむというより、紫式部に「物語の祖(おや)」と言わしめた一級品の物語を読み味わった。本単元でも、「敦盛の最期」で物語の設定・登場人物・人物像・人物の心情・人物の変容などを生徒が自らまとめ、登場人物や物語の内容に存分に感情移入できるようにしたい。
これまで表現に着目し心情などを理解したり、二つの表現を比較してどんなことが読み取れるかという学習を行ってきた。発展学習として伝本の比較を行うが、古文で行うのは初めてである。個人で取り組むのではなく、四人班での学び合いをすることによってねらいが達成できると考える。
 - ② 平家物語について
「平家物語」は中世には「平曲」として語られ、現代でも小説や映画・ドラマの素材となっており、多くの人を引きつけている。それは、この作品にただの歴史書に現れてこない、個々の人間のありさまが描かれているからであろう。貴族社会から武家政権へと変化する動乱の時代、合戦という緊迫した状況に追い詰められたところから、それぞれの人間的な側面が表れているのである。「敦盛の最期」は、戦いのさなかに潔く死を選ぶ敦盛と、人の親として人間として心ならずも敦盛を討たねばならぬ直実の苦悩を軸とした、運命の残酷さ・武士であることの悲哀を描き出している。敦盛の潔い死に対し、人の親として悲しみ、武士としての運命の過酷さを直実も感じ、敦盛をそこまて追いかけていなければならない武士としての悲劇を痛感し、仏門を志す姿に生徒は引き込まれるにちがいない。
鎌倉時代初期に成立した「平家物語」は、琵琶法師の平曲によって庶民の間で広まったことが大きな特徴である。資料によると、「当時の会話が生かされていて、独特のリズムや調子を持っている。聞き手の反応によってアドリブが加えられることがあるのか、史実にはない話が含まれていたり、登場人物の性格が誇張されていたりする。」とあり、少しずつ違う「平家物語」が生まれ、多くの異本が生じた。今回は、「高野本」と「米沢本」の比較を行い、これまで受け継がれてきた「高野本」と「米沢本」の良さに気づかせたい。
 - (2) **指導の構想**
古典に表れたものの見方や考え方は、作品の登場人物や作者の思いに密接に関係しており、登場人物の言動や作者の思いを考えることを通して、作品を貫くものの見方や考え方を知ることができる。本単元では、物語の読解を中心に行い、合戦という緊迫した状況に追い詰められたそれぞれの人間性や登場人物の心情を読み取らせたい。
ところで、学習指導要領の古典を中心とした指導では、「言語文化の享受と継承・発展」が求められている。「享受」とは、昔の人の思いや考えにひたる姿であり、「継承・発展」は古典の内容に対して価値判断する姿である。古典の持つ価値を理解したうえで、自分の思いを込めることが必要である。今回は、発展学

習として平家物語「敦盛の最期」の伝本（「高野本（たかのぼん）」と「米沢本（よねざわぼん）」）の比較を行うが、この活動を通して言動やリズムの違いが明らかになり、伝本から伝わる印象の違いを知ることができると思った。その上で、自分ならどちらを後世に残したいか理由（表現と解釈）を挙げて考えを書かせたい。

5 単元の指導計画（全7時間 本時7/7）

次	学習のねらい（○）と主な活動内容（・） 学習課題（ <input type="text"/> ）	評 価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的仮名遣いに気をつけて音読できる。 ○平家物語の冒頭の文章を理解する。 ・平家物語について作品理解 ・主題をつかむ ・音読 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">冒頭のそれぞれの表現からどんなことが読み取れるだろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">この後、物語はどんな展開になるだろうか。根拠を挙げて説明しよう。</div> <p style="text-align: right;">（3時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いに気をつけ理解できたか。 ・冒頭の文章の主題「無常観」を理解できたか。 ・冒頭の文章の表現を根拠に平家物語がどんな展開をしていくか説明できたか。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「敦盛の最期」の内容を理解する。 ・題名読み・初読の感想・物語の設定 ・直実の敦盛に対する心情 ・敦盛の心情 ・直実の心情の変化 <p style="text-align: right;">（3時間）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・直実・敦盛の人物像を共有する。（0.5時間） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">熊谷と敦盛はそれぞれどんな人物として描かれているだろう。口語訳や古文から根拠を挙げて説明しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「敦盛の最期」のまとめの感想を書く。（0.5時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・敵でありながらも立派な武将を尊敬する気持ちや、自分の息子と敦盛を重ね合わせて動揺する直実の心情が理解できたか。 ・敦盛を討つ時、討った後の心情が理解できたか。 ・敦盛の言葉を手がかりにして、最期まで平家の武将として誇り高くあろうとした心情が理解できたか。 ・初めは武士として手柄を立てようと意気込んでいた直実が、敦盛との出来事を通して人間としての葛藤を味わう姿が読み取れたか。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の根拠をもとに、人物像を捉えることができたか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○「高野本（教科書採用）」と「米沢本」を比較し、違いの中でもとても大きな違いだと考えられるところを挙げる。（1時間） <ul style="list-style-type: none"> ○「敦盛」と「直実」の言動を表す表現の違いを比較する活動を通して、「高野本」と「米沢本」における言動やリズムの違いに気づくことができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">二つの平家物語の表現の違いからどんなことがわかるだろうか。</div> <p style="text-align: right;">（1時間 本時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「高野本」と「米沢本」の比較を通して言動やリズムの違いを文章で表現できる。

6 本時の計画（7時間目／全7時間）

(1) ねらい

○「高野本」と「米沢本」のそれぞれの表現の良さについて、4人班での学び合いを通して、どちらを後世に残すか理由を挙げて説明することができる。

(2) 構想

①学習課題に対する問題意識を高める手だて

米沢本を提示する前に、平曲を聞かせ、「聞き手の反応によってアドリブが加えられたりしながら少しずつ違う「平家物語」が生まれた」（資料より）ことを伝える。その後、「米沢本」を提示することで生徒の興味関心を引くことができると考えた。「高野本」と「米沢本」の中で大きな違いと思われるものを三つに絞り、学習課題とする。

「高野本」の方が一文が短く、緊迫感がある。また、敦盛は武将としての姿が強調されている。それに対し、「米沢本」は一文が長く、情景描写なども丁寧である。そして、人間として感情あふれる姿が浮かび上がってくる。本時では一文の長さ・使われている言葉・響きやリズムにおいて二つの伝本に違いがあることを示し、これまで受け継がれてきた「高野本」と「米沢本」の良さに気づかせたい。そして、授業の振り返りとして、「自分ならどちらの平家物語を後世に残すべきか」について、根拠を挙げて説明する活動を行う。

②主体的で対話的な学習活動の手だて

「ホワイトボード」の活用

A～Cの中から班で一つ選び、表現を根拠にそれぞれが考えを書き込む。

ホワイトボードには、注目した言葉・言葉の意味や響き・そこから受けるイメージや自分の解釈などをそれぞれが書き込んでいく。他者の考えを見ることで自分の考えとの比較でき、テキストとの対話・他者との対話が生まれる。主体的で対話的な学習が可能となり、難易度の高い学習では有効であると考えられる。

(3) 展開

学習活動	○教師の働きかけと・予想される生徒の反応	■評価基準○留意点
<p>導入 (5分)</p>	<p>・「米沢本」を音読する。 ○ A～Cの表現の違いを確認する。</p>	
<p>展開 (20分)</p>	<p>違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一文の長さ ○使われている言葉 ○言葉の響き・リズム 	
<p>学習課題</p>	<p>二つの平家物語の表現のちがいがからどんなことがわかるだろうか。</p> <p>・ A～Cのどれか一つを選び、班ごとに課題に取り組む。(15分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>A【敦盛の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なんちはたそ（高野本） ○かういふわ殿はたそ（米沢本） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>B【直実の行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○熊谷涙をおさへて申しけるは（高野本） ○熊谷、涙をはらはらと流して（米沢本） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C【敦盛の言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ただ、とくとく首を取れ。（高野本） ○ただ何様にも、とうとう首を取れ。（米沢本） </div>	<p>○各班がA B Cのどれを担当するかは前時に決めておく。</p> <p>○それぞれの表現の良さについて考える。</p> <p>■二つの平家物語のそれぞれの表現に着目し、考えをもつことができたか。</p>
<p>共有 (15分)</p>	<p>○各班の考えを全体で共有する。</p> <p>A「なんちはたそ」=短い表現から平家の武将としての堂々とした態度や誇りが伝わる。</p>	

「かういふわ殿たそ」＝やわらかい響きで貴族らしさや相手に対する親しみが伝わる。
 B「熊谷涙をおさえて」＝感情を抑えていて、敦盛を討つことに対しての葛藤や苦しさが伝わる。
 「熊谷、涙をはらはらと流して」＝感情があふれ出ている様子が伝わり、武士としてより、一人の親としての直実の辛さが伝わる。
 C「とくとく首を取れ」＝短い表現や「とくとくとく」という強い言い方から、死を恐れず毅然とした武将としての誇り・精神的な強さが伝わる。
 「ただ何様にも、とうとう首を取れ」＝とうとうという響きやどんなやり方でも（何様にも）という言葉から、死を恐れずどんなことにも動じない強さが伝わる。

まとめ

高野本＝緊迫感

米沢本＝感情の豊かさ

振り返り
(10分)

○二つの平家物語を比べて、自分ならどちらを後世に残すべきか理由を挙げて考えを書こう。

■自分ならどちらを後世に残すべきか、理由を挙げて文章表現できたか。

(4) 評価

○二つの平家物語の比較を通して、自分ならどちらを後世に残すべきか理由（表現と解釈）を挙げて文章表現できたか。